

2022 年 5 月 13 日

2022 年 4 月度市況

東京洋紙同業会（紙青会作成）

<印刷用紙 A>

平判は学参関連の動きは見られたものの、封筒関連など価格修正前の前月に納入する物件が多かった事や、報告書や冊子関連の減少も響き前年を大幅に下回った。前々年比でみても 93.9%であり、今一つ盛り上がりがない状況となっている。

巻取は株主総会関連や金融関連の動きが好調であった。また、不動産関連やチラシ関連の動きも見られ、前年並みに推移した。ただ前々年比でみると 81.5%であり、まだまだ回復とは言えない状況となっている。

（前年比 平判 87.3% 巻取 101.0%）

再生紙は指定物件、入札物件の受注減少が続いている状況の中で、平判は相変わらず厳しい状況であり、前年を大幅に下回った。一方、巻取は官公庁の報告書などで久しぶりに動きがあり前年を上回った。

前々年比では 81.6%と回復基調には程遠い。

（前年比 再生上質平判 51.5% 再生上質巻取 130.9% 再生上質計 72.3%）

（前年比 印刷用紙 A 全体 89.4%）

<A2 コート>

平判は生損保、製薬、出版関連及び各企業向けカタログ、パンフレット、DMで動きがあり、グロス紙は前年を大幅に上回った。

巻取は生損保、食品デリバリー、通販関連で動きがあり、グロス紙は前年を上回った。まん延防止等重点措置は解除されたが、各業界においてコロナ禍での自粛が継続されており、新規の案件も少なく印刷物全般の需要は減少した。

（前年比 平判 101.2% 巻取 86.5% 全体 97.9%）

（2019 年比 A2 コート計 76.5%）

<A3 コート>

学習塾、食品スーパー、量販店、ドラッグストア、買取専門店の定期的なチラシ案件と一部旅行関係で動きがあり、巻取は前年並みに推移した。

（前年比 平判 86.1% 巻取 100.0% 全体 96.4%）

（2019 年比 A3 コート計 79.8%）

<ノーカーボン紙>

平判は生損保の追加やワクチン予診票の細かな追加案件があり大幅な落ち込みとはならなかった。一方、巻取は官需、一般帳票の動きが弱く、価格修正前の在庫積み増しの反動もあり前年を大幅に下回った。

（前年比 平判 96.7% 巻取 77.6%）

<上質フォーム>

税金の納付書や国保カード台紙など自治体案件の動きは堅調だが、金融、生損保の動きが弱く、特需的な動きも見られず前年を下回った。

(前年比 92.4%)

<包装用紙>

特殊両更は官公庁関係向、株式用、金融機関向封筒の需要はあったものの、その他の用途の動きが見られず前年を大きく下回った。

(前年比 85.1%)

軽包装は雑貨店向け雑包装用途が順調な動きを見せ前年を上回った。

(前年比 145.3%)

片艶晒は株式用封筒が例年通り動きをみせ、昨年来の供給不安も一段落し前年並みに推移した。

(前年比 101.5%)

両更晒は昨年来のコロナワクチン用封筒の動きも今年は鈍く、手提げ袋の動きも今一つ回復せず、前年を下回った。

(前年比 96.4%)

純白ロールはGWの百貨店、ショッピングモールへの客足増加を見込み、包装紙関連の在庫積み増しの動きが見られ前年並みに推移した。

(前年比 101.8%)

包装紙全体では111.2%と前年を上回った。

<板紙>

コートボールは大型連休を前に土産物や食品関係などの動きは堅調であった。

特板はテイクアウト向けが安定していたがPOP関係は振るわなかった。高板、チップは出版関連の巣籠り需要も一巡して低調であった。

前月の価格修正前の仮需の影響が全体的に動きは低調であった。

(前年比 88.9%)